

広報しろね

S·h·i·r·o·n·e

1999.6.15
No.548

サークル通信



コートで輝くちびっ子プレーヤーたち
白根市ジュニアソフトテニスクラブ



6年ほど前に市のソフトテニス連盟が中心となって発足。28人の子供たちが、毎週月・金曜日の午後7時から、土曜日は午後3時から、市のテニスコートで練習しています。指導にあたる同連盟会長の今井健さんは「中学・高校の県大会クラスになると、ジュニアから育成した選手でないとなかなか勝つことはできません。このクラブを巣立った子供たちが中学や高校で活躍し、ソフトテニスの楽しさ、スポーツの楽しさを感じてほしいです」と話します。

4月上旬、埼玉県で行われた「ルーセント杯全国選抜小学生ソフトテニス大会」では、男子団体の部で優勝するなどの好成績を収めました。「いいプレーができて、褒められたときはうれしい」「試合で勝ったとき気持ちがいい」と子供たちは笑顔で話します。

現在、8月に香川県で開催される全国大会出場に向けて特訓中。ちびっ子プレーヤーたちは、コートいっぱい白球を追いかけています。

※資源保護のため再生紙を使用しています。※紙上の記事・写真の無断転用を禁じます。

県内一の生産量 白根産チューリップ

市政クリップ
お知らせ
みんなのページ
イラスト倶楽部
サークル通信
あなたも風博士



将棋 風 (神奈川県茅ヶ崎市)

吹けば飛んでしまうようでは、風とは言えないのは当然です。将棋風は、相模灘から吹き付ける五月の強風にも負けず、うなりの音をとどろかせながら揚がります。形は風骨の数が少ない六角風に似ていますが、将棋風はがっちりした頑丈な骨組みで作られています。

明治初期、茅ヶ崎村南湖の「形屋」こと服部走右衛門が、子供の誕生を祝い、豊作を祈って将棋風を作り、空に高く揚げたのが始まりといわれます。以降茅ヶ崎名物として盛んに揚げられましたが、戦争が起こって廃絶の危機に。戦後、浅岡正幸氏らによって復元

あなたも風博士

文・田村和雄
(しろね大風と歴史の館運営委員会委員長)



されました。

二十年前、浅岡氏の率いる将棋風のチームが、中ノ口川の合戦場でデモンストレーションの風揚げをしました。わらわりの長い尾を付けた将棋風は、高く揚がりました。風がやや弱く、うなりの豪快な音を耳にすることができなかったのは残念でした。絵柄は、赤地に白抜きの文字が描かれます。

＝交通事故の発生件数＝

白根警察署管内	5月末現在
	※ () は前年同期
発生件数	127件 (109件)
死者数	0人 (5人)
負傷者数	167人 (134人)

編集ルーム

◎蒸し暑い風が、刈ったばかりの草のおいを巻き上げる土手。◎こんにやくを煮るにおいがする。「風合戦がきたな」と感じる、と言った人がいました。風合戦といって思い浮かべること、私は暑い土手で食べるかき氷です。◎綱を引いて走る笛の音。勢いよくアスファルトに転んでも、笑顔。無茶も、怒声も、荒業も、土手の上なら高揚感にかき消されます。(よ)